手紙No.29

*内容の説明*

*手紙No.29の内容*

*Mはヒュームの態度を容認するー感謝は神聖な負債である。アデプトの間では言い争いはないー第１の事実の価値―言葉よりも思考を優先する。KＨは死去の前にMに弟子たちのことを話すーMの約束―Mのブラザー（KH）への愛―彼は仕事を見守る。ヒュームの気持ちー誤解された言葉―しかし、Mはそうしなかった。ヒュームの発言についてのさらなる観察ーHPBに対する彼の扱いの不当性。 自分自身を知ることの必要性―明確な理解の必要性―ヒュームはプライドの体現者。マハートマの基準―MとKHに対するヒュームの言葉―彼の一貫した態度―矛盾することはない。ヒュームは自分が軽んじられ、不当な扱いを受けていると考えているー彼の弱者に対する弁護―Mの彼の性格に対する寛大な評価―マハートマは個人的な痛みや喜びには影響を受けないーMのラージプートの血は女性の感情を傷つけることに抵抗している。ヒュームは自分の態度によってこれ以上のコミュニケーションを不可能にしているーマハートマの動機や行動を理解することができないープライドによって盲目になっている。現象に対する許可は与えられていないーシネットとヒュームの両者に対する感謝の気持ちーTSへの期待―法は法、マハートマは自分の義務を果たす。現象は西欧の心の誤った信念を決して揺るがすことはないー　人が疑う限り、好奇心と探究心が生まれるー肉の目で霊のものを読み取ろうとしていること。アデプトの印。*

手紙No.29

ヒュームについてなどのMの手紙（1881年10月、シムラ着）。

１段落目

あなたへのお返事は、かなり長い手紙になってしまいます。まず始めに、以下のことを申し上げます。ヒューム氏は自分が私から哲学の指導を受けようとしている心境に影響を与える限りにおいてのみ、私のことを注目すべき方法で考えたり話したりしています。彼が私を尊敬しているかどうかは、彼が私の不興を買うかどうかと同様に、ほとんど気にしていません。しかし、彼の表面的な不愉快さを通り越して、私は彼の動機の良さ、能力、潜在的な有用性を十分に認識しています。彼が忍耐強くしている間は、私が助けになることに気づくでしょう、お世辞でも論争でもなく。

２段落目

彼はメモと追伸の両方が書かれた精神を完全に誤解しており、もしこの最後の3日間に、哀れな年老いたチェーラのために彼がしてくれていることに深い感謝の念を抱いていなかったら、私はわざわざ言い訳や説明、あるいはその両方と思われるようなことをすることはなかったでしょう。しかし、その感謝の気持ちは非常に神聖なものであり、私は今、彼女のために、たとえ協会のためであっても断っていたかもしれないことをしているのです。閣下にいくつかの事実を伝えることを許していただきたい。私たちのインド・チベットの方法について、最も賢明な英国の役人はまだ知りません。現在提供されている情報は、我々の将来の取引に役立つかもしれません。私は誠実で率直でなければならず、ヒューム氏は私を許してくれなければなりません。もし私が話さなければならないとしたら、すべてを話すか、何も言わないかのどちらかです。

３段落目

サーヒブ、私は、我が神聖なブラザーのような立派な学者ではありませんが、それでも自分が言葉の価値を理解していると信じています。それならば、私の追伸の何が、ヒューム氏の私に対する皮肉な不快感をこれほどまでに引き起こしたのか、理解に苦しむところです。私たちインド・チベットの住居では、決して言い争いをしません（これは、このテーマに関連して表明されたいくつかの考えに対する答えです）。言い争いや議論は、一見して状況を把握することができず、最終的な決断を下す前に、一つ一つの詳細を分析し、何度も何度も検討しなければならないような人々に任せるのです。私たちが、少なくともディクシタである私たちが、ヨーロッパ人から見て「自分の事実に確信が持てない」ように見えるときは、次のような特性が原因であることが多いでしょう。多くの人が「事実」とみなすものは、私たちにとっては単純な結果に過ぎず、一般的に主要な事実にしか関心を持たない私たちの注意に値しない後付けの考えに過ぎないかもしれません。尊敬する閣下がたよ、人生はたとえ無限に続くとしても、飛び去る詳細や単なる影に脳を負わせるには短すぎる。嵐の進行を見守るとき、私たちは原因となるものに視線を向け、雲はそれを形作る風の気まぐれに任せます。絶対に必要なときに、些細なことを知るための手段が常に手元にあるので、私たちは主要な事実にしか関心を持ちません。したがって、私たちが絶対的に間違っているということはありえません。よく皆さんに非難されますが、私たちの結論は決して二次的なデータからではなく、状況全体から導き出されるからです。

４段落目

一方、平均的な人間は、たとえ最も知的な人であっても外観や外形の証言にすべての注意を払い、物事の核心を先験的に洞察することができないため、全体の状況を見誤る傾向があり、自分の過ちに気づくのが遅すぎるのです。複雑な政治、討論、あなたが言うところの「社交辞令」や「応接室での論争」や「議論」のおかげで、詭弁は今やヨーロッパでは（そしてアングロインド人の間では）「知的能力の論理的な行使」となっていますが、私たちの間ではそれは「誤った推論」という原始的な段階、つまりほとんどの結論や意見が引き出され、形成されてすぐに飛びついてしまうような、不確実で不安定な前提の域を脱することはありませんでした。また、私たちチベットの無知なアジア人は、相手や文通相手の言葉よりも、その考えを追うことに慣れているので、一般的にはその人の表現の正確さにはほとんど関心がありません。さて、この序文はあなたには意味不明で役に立たないように見えるでしょうし、こうお聞きになるかもしれませんね、「彼は何を訴えているのか」と。我慢してください。最終的な説明の前に、もっと言いたいことがあるのです。

５段落目

別れの数日前、クート・フーミがあなたのことを話していて、次のように言っていました。「このような終わりのない論争には疲れてしまった。私たちを支配し、私たちの間に自由な交流を妨げる多くの障害をもたらしている状況を、２人に説明しようとすればするほど、２人は私を理解しなくなるんだ。なぜなら、議論ができ、知的な問題が生じたときにすぐに解決できる個人的なインタビューでなければ、彼らを完全に満足させることはできないからだよ。まるで、通れない渓谷を挟んでお互いにオーイと叫んでいて、片方だけが相手を見ているようなものだ。実際のところ、物理的な自然の中には、旅人を私から遠ざけている精神的なものほど、絶望的に通り抜けられず妨げとなる山の深淵はないよ」。

６段落目

その２日後、彼の「引退」が決まり、別れ際に彼は私に尋ねました。「私の仕事が廃墟にならないように見守っていてくれないか？」私はそうすると約束しました。あの時、約束しないなどということがあるでしょうか？

部外者には言えないある場所に、草で編んだもろい橋が架かっている深い割れ目があり、その下には激流が流れています。蜘蛛の巣のように張り巡らされた橋は、腐っていて通れないように見えるため、山岳会の最も勇敢なメンバーでもあえて通ろうとはしないでしょう。しかし、そうではないのです。勇気を出して挑戦し成功する者は、それが正しくて許されるならばそうするでしょうが、ヨーロッパの地理学者の間ではメモも覚書きもない、我々の場所の一つであり我々の民族の一部である、比類のない美しい風景の峡谷に入ります。古いラマ教の僧院のすぐ近くには、何世代にもわたって菩薩たちを育んできた古い塔があります。その塔の中に、あなたの亡くなった友人、私の兄弟であり、私の魂の光であり、私が彼の不在の間、彼の仕事を見守ることを忠実に約束した人が眠っています。そして、あなたにお聞きしたいのですが、彼が引退した２日後に、彼の忠実な友人であり兄弟である私が、彼のヨーロッパの友人たちに無礼な態度をとったと考えられるでしょうか？ヒューム氏、そしてあなたの心にも、そのような考えを抱かせた理由は何だったのでしょうか。それは、ヒューム氏が全く誤解し、誤って適用した１つまたは２つの言葉にあります。それを証明しましょう。

７段落目

もし、「嘘で編んだ衣を着るのを嫌うようになった」という表現が、「嫌悪感や一時的な苛立ちを再び感じるようになった」という表現に変わっていたら、この文章だけで結果が大きく変わっていたと思いませんか？　もしこのような言い方をしていたら、ヒューム氏はこの事実をこれほど激しく否定する機会を得られなかったでしょう。なぜなら、彼は正しく、この言葉は間違っているからです。憎しみという感情が自分の中になかったというのは、完全に正しい発言ですが、この発言に対して彼が一般的に抗議できるかどうかはわかりません。彼は「イライラしていた」という事実と、HPBが生んだ「不信感」を告白しました。その「苛立ち」は数日間続いたことはもはや否定しないでしょうね。さらに、彼はどこで虚偽の陳述を見つけたかについて、使用した言葉が間違っていたことも認めましょう。彼が言葉の選択にこれほどこだわり、常に正しい意味を伝えることを望んでいるのだから、同じ行動ルールを自分にも適用してはどうでしょうか。英語を知らないアジア人、しかも表現を選ぶ習慣のない人であれば十分に許されることでも、上記の理由により彼の人々の間では誤解されるべきではないので、教育を受け、高い文学性を持つイギリス人には許されないことになってしまうのです。オルコット宛の手紙で、ヒューム氏はこう書いています。「彼（私）か彼女（HPB）か、あるいはその両方が、シネットと私が書いた手紙を混同して誤解したために、状況に全くそぐわないメッセージを受け取ることになり、必然的に不信感を抱くことになった」。恐れ入りますが質問をさせていただくと、私、彼女、あるいは私たちのどちらかが、問題の手紙をいつ見て、読んで、それゆえに「混同し、誤解した」のでしょうか？　彼女は見たことのない、そして私はチョーハンとKHだけに関する問題を、自分自身の問題と混同したりしないし、調べたり混ぜたりする気もないし、そのような権利もありません。問題の日、HPBはあなたに、私がHPBをシネット氏の部屋に送り込んだのは、あなたの手紙のゆえにであると伝えましたか？　私はサーヒブを尊敬してその場にいたので、彼女が言ったすべての言葉をあなたに伝えることができます。「何ですか？……あなたはKHに何をしていたのか、何を言っていたのか？」と彼女は部屋に一人でいたシネット氏に向かって、いつものように興奮して神経質になって叫びました。「あのM□（私の名前）があんなに怒って、セイロンに本部を設置する準備をしろと言うなんて」というのが彼女の最初の言葉でしたが、これは彼女が確かなことを何も知らず、さらに何も聞かされず、私が話したことから推測しただけだということを示しています。私が彼女に言ったことは、KHに送るようにと渡されたすべての手紙に震えているような馬鹿なことをするくらいなら、最悪の事態に備えてセイロンに移住した方がいいということ、そして、彼女が自分自身をもっとうまくコントロールできるようにならないと、私はあの駅伝郵便にストップをかけるだろうということでした。この言葉は彼女に言ったもので、私があなたや他の手紙と関係があったからではなく、また送られてきた手紙のせいでもなく、たまたま新しい折衷主義者と彼女自身の周りに、黒くて将来の悪事を孕んだオーラが見えたので、ヒューム氏にではなくシネット氏にそう言うように彼女に命じたのです。私の発言とメッセージは（あの不幸な性格と打ち砕かれた神経のために）最も馬鹿げた方法で彼女を動揺させ、よく知られたシーンが続いたのでした。彼女が見たこともない手紙を混乱して誤解したと、私の仲間内で非難されているのは、彼女のアンバランスな頭脳が呼び起こした神智学的破滅の幻影のためでしょうか？　ヒューム氏の声明の中に正しいと言える言葉が一つでもあるかどうか（今、私は「正しい」という言葉を、単に切り離した言葉ではなく、文章全体の実際の意味に適用しています）は、アジア人よりも優れた頭脳の判断に委ねます。そして、もし私が教育、知性、そして物事の永遠の適合性を認識する鋭さにおいて、私よりもはるかに優れた人物の意見の正しさを疑うことが許されるならば、上記の説明を踏まえて、なぜ私が次のような発言を「絶対的に間違っている」とされなければならないのでしょうか。「私はまた、シネット氏の部屋に彼女を伝言のため送った日に、不信感からくる突然の嫌悪感（苛立ちとも言う）が芽生えたのを見た（ヒューム氏はオルコット氏への回答の中で告白し、同じ表現を使っています。上に挙げた彼の手紙からの引用を比較してほしい）」。これは間違っていますか？　そしてさらに「彼らは彼女がどれほど興奮してバランスを崩しているか知っていますが、彼のこの敵対的な感情はほとんど残酷なものでした。彼は何日も彼女を見ることも、話しかけることもせず、彼女の超敏感な性質に深刻で不必要な苦痛を与えたのです。そして、シネット氏からそのことを聞かされたとき、彼はその事実を否定しました......」。この最後の一文は７ページに続き、他の多くの同じような真実とともに、私が残りの部分を破り捨てました（オルコットに問い合わせれば、彼は元々10ページではなく12ページあったと言うでしょうし、あなたが今見ているよりもはるかに多くの詳細を書いて手紙を送ったと言うでしょう。私は、ヒューム氏が長い間忘れていた、この件とは無関係の詳細を思い出させたくなかったので、そのページを破り、残りの多くを消してしまったのです。彼の気持ちはすでに変わっており、私は満足していました）。

８段落目

さて、問題はヒューム氏が自分の気持ちは私を喜ばせるかどうかを「少しでも気にする」かどうかではなく、彼がオルコットにあのような手紙を書いたこと、つまり私がヒューム氏の本当の気持ちを完全に誤解していたことが事実上正当化されるかどうかです。私は、彼は正当化されないと言います。私が「不愉快」になるのを彼は防ぐことはできませんし、彼が今感じていること、つまり「自分の気持ちが私を喜ばせるかどうかなんて、ちっとも気にしない」ということ以外のことを感じさせるために、私がわざわざ努力することもあり得ません。人の役に立つ方法を学びたいと思い、他人の性格を読むことができると思っている人は、まず自分自身を知り、自分の性格をその真価で評価することを学ぶことから始めなければなりません。あえて言えば、彼はまだ学んだことがないのです。また、結果がキエン（訳注：シルクロードの地Yarkand）となったときに、どのような特定の場合が重要で根本的な原因になるのかを学ばなければなりません。もしヒューム氏がHPBを心から憎んでいたとしても、「親愛なる老女をまだ愛している」間、愚かで敏感な彼女の神経をこれほど効果的に痛めつけることはできなかったでしょう。しかし、彼の最初の衝動は常にそれを否定することでしょう。なぜなら、彼はその事実を完全に意識していないからです。彼の心の極端な優しさは、このような場合、別の感情によって完全に盲目となり、麻痺しています。彼の”goose”（あほう）や「ドンキホーテ」という表現にもめげず、祝福された兄弟との約束を忠実に守って、ヒューム氏が望もうと望むまいと、私はこのことをヒューム氏に伝えようと思います。しかし、彼が自分の気持ちを素直に表現した以上、私たちはお互いに理解し合うか、あるいは決裂するしかありません。これは、ヒューム氏が表現するように「半端な脅し」ではなく、「人の脅しは犬の吠え声のようなもの」で何の意味もありません。私は、ヒューム氏が自分の社会の西洋人を判断するのに慣れている基準が、私たちには全く適用できないことを理解しない限り、私やKHが教え彼が学ぶのは単に時間の無駄だと言っているのです。私たちは、親切な警告を「脅威」とは思わないし、警告を受けても苛立ちを感じません。彼は、個人的には「明日、ブラザーたちが自分と決別したとしても」全く気にしないと言っていますが、私たちが理解を深めなければならない理由はそれだけです。ヒューム氏は、自分の抽象的な理想以外のものに「崇拝の精神」を持ったことはないと自負しています。我々はそのことを完全に認識しています。また、彼は誰に対しても、何に対しても、崇拝の念を持つことはあり得ません。彼の性質に可能な崇拝の念はすべて、自分自身に集中しているからです。これは事実であり、彼の人生におけるすべてのトラブルの原因でもあります。多くの公認の「友人」や家族が、それを「うぬぼれ」だと言うとき、彼らは間違った、非常に愚かなことを言っているのです。驕るにはあまりにも高い知性を持つ彼は、単に無意識のうちにプライドを体現しているのです。だからこそ、彼はどんな確立された教義にも従うことができないし、ギリシャ神話のサラスワティやミネルバのように、自分自身の、つまり父親の脳から武装して出てこない哲学には決して従わないのです。このことは、私が短い指導期間中に、彼に半分の問題やヒント、自分で解決するための難問以外のものを与えることを拒否した事実につながるかもしれません。なぜなら、物事の本質を把握する彼自身の並外れた能力が、数学的に正しいと思われることと一致するので、そうでなければならないと明確に示してくれたとき、初めて信じることができるからです。もし彼が、自分が本当に愛しているKHを不当にも非難したとしたら、それは自分のイメージで我がブラザーの理想を作り上げたからであり、ヒューム氏は我々が自分を見くだすように扱っていると非難しているのです。もしヒューム氏が、我々の目の前では正直な靴磨きは正直な王様と同じくらい優秀であり、不道徳な掃除夫は不道徳な皇帝よりもはるかに高く、許されるということを知っていれば、このような誤りを口にすることはなかったでしょう。ヒューム氏は、我々が彼の上に座ろうとしていると訴えています（実にすみませんが、「笑う」という表現が正しい）。あえて言えば、絶対にその逆ではないでしょうか。ヒューム氏は、クートフーミに宛てたすべての手紙の中で、（これも無意識のうちに、長年の習慣に屈して）私のブラザーと一緒に、その最も居心地の悪い姿勢を取ろうとしたのです。そして、人間のプライドの頂点に達する激しい自己承認と自信を示すある表現が、兄に気づかれて軽く反論されると、ヒューム氏はすぐに別の意味をそれらの表現に与え、KHがそれを誤解していると非難して、膨れ上がって「高慢ちき」と呼んだのです。では、私はヒューム氏を不公平、不公正、あるいはそれ以上のものとして非難するでしょうか？　決してそうしません。これほど正直で、誠実で、親切な人はヒマラヤにはいません。私は、彼の家族やご夫人が全く知らない彼の行動を知っています。それはとても高貴で、とても親切で、壮大なものですが、彼自身のプライドでさえもその価値を完全には見抜けません。だから、彼が何をしようと何を言おうと、私の尊敬の念は薄れません。しかし、だからこそ私は彼に真実を伝えざるを得ません。彼の性格のその面は私の賞賛の的ですが、彼のプライドは決して私の承認を得ることはありません。もう一度言いますが、ヒューム氏は少しも気にしないでしょうが、それは本当にほとんど重要ではありません。インドで最も誠実で率直な人物であるヒューム氏は、矛盾を許すことができません。また、自分以外の人物が悪魔であろうと人間であろうと、その人に自分と同じ誠実な資質を評価することはできませんし、抗議せずに認めることもできません。また、自分が研究して意見を述べたことを、この世の誰かが自分よりもよく知ることができると告白することもできません。彼はオルコットに宛てた手紙の中で、「彼らは、私にとって最良と思われる方法で共同作業を始めようとしない」と訴えていますが、この一文だけで、彼の全人格の鍵となり、彼の内なる感情の働きを最も明確に知ることができます。彼は、自分の指導の下で働くことを「狭量である」「利己的である」と拒否された結果、自分が軽視され、不当な扱いを受けたと考える権利があると考えていますが、心の底では、私たちの拒否に腹を立てるどころか「彼ら（私たち）のやり方で進んでいくことを望んでいる」、最も寛容で寛大な人間であると考えざるを得ないのです。そして、彼の意見に対するこの我々の不遜な態度は彼にとって喜ばしいものではありません。そのため、彼の大きな間違った感情が高まり、我々の「利己主義」と「高慢さ」の大きさに比例するようになるのです。それゆえ、彼は幻滅し、ロッジと私たち全員が彼の理想の水準をはるかに下回っていることに心からの苦痛を感じているのです。彼は、私がHPBを擁護していることを笑い、自分の性質にふさわしくない感情に負けて、自分が友人や敵に「哀れな人々の保護者」などと呼ばれることの確証となる性質を持っていることや、彼の敵が他の人たちと一緒に、自分自身にそのような形容詞を必ず適用することが非常に残念なのです。しかし、彼を侮辱するどころか、弱者や抑圧された者を擁護し、シムラ自治体の騒ぎのように同僚による過ちを正そうとする騎士道精神は、彼が恐れずに擁護する人々の彼に対する感謝と愛情から紡ぎだされた不滅の栄光の衣で彼を覆っています。お二人とも、我々に自分たちのことを何か言われたり考えられたりすることを気にすることができる、あるいは気にするものだという奇妙な印象をお持ちのようですね。ただの僧であっても、肉体的な苦痛と同様に精神的な苦痛にも無関心でいられるように訓練することが第一条件であることを忘れてはいけません。私たちに個人的な痛みや喜びを与えるものは何もありません。今、私が言うことは、学ぶのが最も難しい科学である皆さん自身よりもむしろ我々を理解してもらうためのものです。ヒューム氏の意図は、「自分の上に座りたい」と非難した私への苛立ちが募ったことによるもので、皮肉を込めて、つまり（ヨーロッパ人の心としては）私を侮辱することで復讐しようとしたのですが、それが的外れであったことは確かです。私たちアジア人には、西洋人が人類の最も優れた、最も高貴な願望を風刺するように促す馬鹿げた感覚が全くない、というより忘れているのですが、私は世界の意見に不快感を感じたり、お世辞を言われていると感じたりすることはあっても、どちらかと言えば褒められたと感じたでしょう。ラージプートの血を引く私は、女性の気持ちが傷つくのを見ると、たとえその女性が「空想家」であっても、そして今では「想像上の」と間違って呼ばれる「気まぐれ」であっても、擁護せずにはいられないのです。したがって私は、風刺的な言葉が私に届いて傷つくことを彼が望んでいたとしても、彼が花崗岩の柱に話しかけていたという事実を知っていたとしても、彼を促した感情は、自分自身のより高貴でより良い性質にふさわしくないものであったと言いたいのです。そして彼のOさんへの手紙の中で、私たちの手紙に見られると想像した、あなたとの関係を断ち切ろうとする「半ば脅し」のような態度に不満を抱き、糾弾しています（私が使える英単語は限られていますが、ご容赦ください）。これ以上の誤りはありません。正統的なインド人が、訪問先の家で用済みと言われるまでその場を離れないのと同様に、私たちは彼と決別するつもりはありません。しかし、後者がほのめかされると、その家を去ります。我々も同様です。ヒューム氏は、個人的には我々に会いたいとは思わないし、好奇心もない、我々の哲学や教えは、学べるものはすべて学んで知っている自分には少しも有益ではない、我々が自分と決別しようとしまいと気にしないし、我々が自分を喜ぼうと喜ぶまいと少しも気にしない、と繰り返して得意げに語っています。では、"Qui bono"？（誰の利益になるのか？）我々が彼に期待する、（彼による）想像上の敬意と、いつでも彼と共に堕落するかもしれない本当の敵意との間には深淵があり、チョーハンでさえ見ることのできる中立点はありません。今では、以前のように状況や私たち特有の規則や法律を考慮していないと非難されることはありませんが、彼は常に信頼が曖昧になり、暗い疑念や誤った印象が地平線全体を覆っている、友好の黒い境界線に向かって急いでいます。ロッジと人類に対する義務の奴隷であり、個人に対するあらゆる好みを人類への愛に従わせることを教えられているだけでなく、そうしたいと思っています。したがって、私や私たちの誰かが利己的であると非難したり、都合のよい馬を見つけられないからといって、あなた方を「ガチョウ」（poultry　Pelingis）と見なして扱ったり「ロバに乗ろう」と望んだりするのは、不幸なことです。チョーハンもKHも、そして私も、ヒューム氏の価値を過小評価したことはありません。彼は神智学協会とHPBに計り知れないほどの貢献をしてきましたし、この協会を効果的な善の代理人にすることができる唯一の人物です。霊的な魂が彼を導いてくれるのであれば、彼より純粋で、優れた、親切な人間はいないでしょう。しかし、彼の第５原理がどうしようもない高慢さで反抗するとき、私たちは常にそれに立ち向かい、挑戦します。あなた方が我々の実在の証拠でどのように武装すべきか、あるいは彼にとって最良と思われる方法でどのように共同作業を進めるべきかについて、彼の優れた世俗的な助言に動じることなく、私は反対の命令を受けるまで、そのように動じないでいます。あなたの最後の手紙（シネット氏の手紙）に言及すると、あなたは自分の考えを最も愛想の良い言葉で飾っていますが、私が現象の許可を出さず、私たちの誰もがあなたに一歩も歩み寄らないことに、あなたは驚き、シネット氏に関しては失望しています。私にはどうすることもできませんし、どんな結果になっても、ブラザーが戻ってくるまでは私の態度は変わりません。あなたは私たち両方とも、自国と民族を愛していること、神智学協会を適切な人の手にかかれば人々のためになる大きな可能性を秘めていると考えていること、彼（ブラザー）はヒューム氏がこの目的に参加することを喜んで歓迎すること、私はこの目的に高い、しかし適切な価値を置いていることを、知っています。だからこそ、あなたと彼をより親密にするために我々ができることは何でも、心を込めて行うということを理解していただきたいのです。しかし、いつあなた方のどちらかに会うか、何を書くか、どのようにして、どこで会うか、というチョーハンの軽い命令に従わないことと、あなた方の好意を失うこと、さらにはあなた方の強い敵意を感じること、そして協会を崩壊させることの間に選択があるとしたら、私たちは一瞬たりとも躊躇すべきではありません。不合理、利己的、ふてぶてしい、ばかげていると思われるかもしれず、聖職者のようだと非難され、すべての責任を我々の扉に負わされるかもしれませんが、法則は法則であり、いかなる権力も私たちの義務を一片たりとも放棄させることはできません。我々は、あなたの磁力を向上させることで、あなたが望むものすべてを手に入れるチャンスを与え、あなたが努力すべきより崇高な理想を指し示し、ヒューム氏は、どうすれば何百万人もの仲間に莫大な利益をもたらすことができるかについて彼がすでに知っていたことを教えてくれました。あなたの最高の光に合わせて選んでください。しかし、ヒューム氏はまだ何度も考えを変えるかもしれません。私は自分のグループに対しては変わらず、彼が決めたことは何でも約束します。また、ヒューム氏がすでに行っている大きな譲歩を評価しないわけにはいきません。彼が私たちの存在にあまり関心を持たなくなり、人類のためになることだけを願って自分の感情に暴力を振るうようになればなるほど、私たちの目には譲歩が大きく映るのです。彼の立場であれば、誰も彼ほど優雅に自分の状況に適応しなかっただろうし、8月21日の会議での「主要な目的」の宣言をより厳格に守っていなかったでしょう。「支配階級のメンバーもTSの称賛に値するプロジェクトを推進することを望んでいることを先住民のコミュニティに証明する」一方で、彼は我々の形而上学的真理を得るためにさえ、好機をうかがっています。彼はすでに莫大な善行を行っていますが、まだ何の見返りも受けていません。また、彼は何も期待していません。この手紙は、あなたのすべての手紙に対する答えであり、あなたのすべての反論や提案に対する答えであることを思い出しながら、あなたが正しいこと、そして「あなたの現実主義な面」にもかかわらず、私の祝福された兄弟は、あなたや、あなたのように「誇り高く、私たちの保護に報酬を求めることができない」にもかかわらず、嬉しいことに好感を持ってくれていることがわかったヒューム氏に対して、真の敬意を抱いていることを付け加えておきます。親愛なる閣下、あなたが常に間違っているのは、現象が西洋の心の中にある誤った信念の基礎を揺るがす「強力なエンジン」になることができるという考えを持っていることです。自分の目で見る人以外は、あなたが何をしようと信じることはありません。「私たちを満足させれば、世界を満足させることができる」とあなたはかつて言いました。あなたは満足し、その結果どうなったでしょうか？　我々はヒューム氏やあなたに、我々が本当に存在することを世間に決定的に証明してもらいたいとは思っていないという深い確信を、皆さんの心に刻みたいと思います。人が疑う限り、好奇心と探究心が生まれ、探究心が反省を促し、努力を生むという事実を理解してください。しかし、我々の秘密が一度徹底的に世間に広まってしまえば、懐疑的な社会は大きな利益を得られないばかりか、我々のプライバシーは常に危険にさらされ、不合理なコストをかけて守り続けなければならなくなります。我慢してください、我が友の友人よ。ヒューム氏は自分の本を構成するのに十分な数の鳥を殺すのに何年もかかりました。そして、彼は鳥たちに緑の隠れ家から出るように命じたのではなく、鳥たちがやってきて、彼が鳥たちを剥製にしたりラベルを貼ったりするのを待たなければなりませんでした。ああ、サーヒブたちよ、サーヒブたちよ！　もしあなたが我々を目録にし、ラベルを貼り、大英博物館に展示することしかできなければ、あなたの世界は本当に絶対的な、ひからびた真実を手に入れることができるかもしれません。

９段落目

　そして、すべてはいつものように出発点に戻ってくるのです。あなたは、自分の影の中で我々を追いかけてきて、時々、我々の姿を垣間見ていますが、足元にあって未来を見つめている疑惑の不気味な骸骨から逃れるのに十分なほどに近づくことはありません。あなたには、この本を最後まで読む忍耐力がないので、この章の終わりが心配です。というのも、あなたは肉の目で霊的なものを見抜こうとしており、融通の利かないものをあるべき姿の自分の粗いモデルに合わせて曲げようとしており、それが曲がらないとわかると、そのモデルを壊して、夢に永遠に別れを告げる可能性が高いからです。

10段落目

　さて、ここで最後の説明をしておきましょう。このような悲惨な結果をもたらし、最もユニークなqui　proquo（訳注：フランス語で「誤解」）をもたらしたOのメモは、27日に書かれたものです。25日の夜、最愛のブラザーが私に言ったのは、HPBの部屋でヒューム氏が、Oが私たちを直接見たと言ったのを自分は聞いたことがない、と言ったのを聞いて、また、オルコットがそう言ったのなら、彼の言うことを信じるだけの自信があると付け加えたのを聞いて、彼、KHは私に、Oにそう言いに行ってくれと頼もうと思いました。詳細を知ることでヒューム氏が喜ぶかもしれないと信じて。KHの願いは、私にとっては法律です。だからこそ、ヒューム氏の疑問が解消された段階で、O氏からあの手紙が届いたのではないでしょうか。私はO氏にメッセージを伝えると同時に、彼の協会に対する好奇心を満たし、私の考えを伝えました。O氏は、このメモをあなたに送ることを許可してくれました。さて、これがすべての秘密です。私自身の理由から、最愛の兄がこの世を去ってから数時間後の状況について、私がどう考えているかをあなたに知ってもらいたかったのです。この手紙があなたのもとに届いたとき、私の気持ちは幾分変わっていて、先に述べたように、メモの内容をかなり変えました。Oの文体が私を笑わせたので、私はオルコットだけに関連する後書きを加えましたが、それにもかかわらず、ヒューム氏は完全に自分自身に適用したのです！

11段落目

　終わりにしましょう。これまでの人生で最も長い手紙を書き終えましたが、KHのために書いたのだから満足です。ヒューム氏はそう思っていないかもしれませんが、「アデプト（熟練者）の印」はシムラではなく-- -- で保管されています。私は、作家としても文通者としてもどんなに貧弱であっても、それを維持しようと努めています。

M□